

六甲山自然案内人の会 平成 24 年 12 月度定例観察会報告書

実施日 : 平成 24 年 12 月 8 日 (土)
担当班 : 2 班
コース : 諏訪山公園～大師道～猩々池～二本松林道～城山～徳光院～JR 新神戸駅
参加人数 : ビジター 20 名 会員 24 名 計 44 名
テーマ : ～美しい紅葉を楽しみながら冬の古道を歩く～

概要

弘法大師が登ったとされる大師道で冬場の樹木を観察し、城山では戦国時代に立ち返って当時の山城を偲びました。

解説事項

もみじ (紅葉)

万葉の歌に

原文：吾屋戸尔 黄愛蝦手 毎見 妹乎懸管 不戀日者無

(我宿に、もみつ蛙手見る毎に、妹を懸けつつ恋ぬ日は無し) とあります。

蛙手はもちろんカエデのこと、このもみつ (色を揉み出す) の名詞形がもみちであり、今のもみじとなったようだ。

従って、もみじ (色を揉み出す事) はカエデだけでなく様々の植物について、紅葉ばかりでなく黄葉、褐葉までを言っている。また、唐から文化を吸収していた当時、高貴な色として黄色 (カロチノイドによる) を貴いとしたこと、また、当時は黄変する草木が身近に多かったからではないだろうか。黄葉を読んだ歌は 137 首を数え、紅葉は 5 首にすぎない。また、草紅葉ももみじとして好まれる。

カエデ科は世界に 169 種、日本には 28 種 (常緑のクスノハカエデを含め) この六甲山には 11 種ある。

テイカカズラ

キョウチクトウ科の常緑つる性

付着根によって木によじ登る。

花はスクリューのような形。

実は 15~20 cm の二又で細長い豆のような袋状。熟すと捻じれて割れチューブ状の綿毛 (5 cm ほど) でパラシュートのように飛んでいく。

キョウチクトウ科は多くが有毒性で世界に 160 属 1,800 種ほどで、日本には他にシマソケイ、サカキカズラ、チョウジソウ、バシクルモン (変種でアイヌ語) 等がある。

テイカカズラのテイカは、平安末期の歌集の撰者である「藤原定家」であり、名の由来は能「定家」に読まれた物語から来ている。

定家の愛した色子内親王が 49 歳で亡くなったのちも、定家はその御墓に葛となってまわりつ

いたということ。



メタセコイア

スギ科の落葉高木

猩々池から二本松への林道沿いで群落を見ることが出来る。

1958年に4,000本が植林されている。

1940年代に中国で発見されるまで生きたものは知られていなかったので「生きた化石」と言われている。日本でも100万年前までは生きていた。



滝山城

南北朝時代に赤松氏により築かれたとされる。

戦国時代三好長慶が松永久秀に命じて修復させる。

城主はたびたび替わり最後は織田信長の家臣荒木村重。

標高300mの尾根を使った典型的な山城。東西600m、南北400mの城域を持ち、ほぼ完全な形で残されている。



徳光院

明治 39 年に川崎重工創始者の川崎正藏が自らの資力だけで創建。
本尊は、十一面観音菩薩像で鎌倉時代の作と言われる。
国の重要文化財である多宝塔は、垂水の明王寺から譲り受け移築。

イロハモミジ、ハウチワカエデ、イチョウ等紅葉が素晴らしい。
(12/8 時点では見頃は過ぎていた。以下の写真は 11/18 撮影)



後記

今年の紅葉は例年より早かったため、テーマ～美しい紅葉を楽しみながら冬の古道を歩く～の様にはいきませんでした。しかし、講師役を務めていただいたベテラン会員はじめ皆様のおかげで楽しい会となりました
ご協力に感謝申し上げます。